

施策評価シート（評価実施年度：平成27年度）

事務事業所管部局長 (幹事部局)	教育長 藤原孝行	電話番号	0852-22-5401
---------------------	----------	------	--------------

①施策の目的等

施策の名称	施策Ⅲ-4-4 文化財の保存・継承と活用
目的	〇県民が、全国に誇る島根固有の歴史・文化に理解を深め、次の世代へ保存・継承するとともに、魅力ある地域づくりのために、積極的な活用を目指します。

②成果参考指標の目標（実績）と施策の現状、及びその評価

数値目標	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位	数値目標	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
島根県において、文化財の保存・継承と活用がなされ、地域の歴史・文化が豊かと思う人の割合	目標値	/	72.90	73.60	74.30	75.00	%	目標値	/						
	取組目標値	/						実績値	/						
	実績値	72.30	69.70	66.40	65.30			達成率	/						
	達成率	/	95.60	90.20	87.90										
	目標値	/					%	目標値	/						
	取組目標値	/						実績値	/						
	実績値							達成率	/						
	達成率	/													
定性目標	平成24年度～平成27年度														
成果参考指標の実績等の補足説明（任意記載）	必要に応じて記載（任意記載）														

③評価時点での施策目的に対する現状

評価時点での施策目的に対する現状 (客観的事実・データなどに基づいた施策の現状や取組状況)	<p>〇国・県指定文化財等は、平成26年度末で762件指定されており、修繕等の助成を平成26年度は48件行った。</p> <p>〇小中学生が直接文化財に触れて学ぶ「心に残る文化財子ども塾」（26校605名参加）、古代出雲歴史博物館での、小中高校生等を対象とした博学連携プログラム（延べ91校）、風土記の丘での、工作体験教室やこどもの日イベントの開催などさまざまな交流普及事業を実施した。</p> <p>〇出雲大社大遷宮の効果が薄れたこともあり、平成26年度の古代出雲歴史博物館の入館者数は約28万5千人と昨年比4.3%減、八雲立つ風土記の丘も約2万4千人と昨年比1.7%減となった。</p> <p>〇出雲国風土記県外シンポジウムや連続講座の開催、石見・隠岐での巡回講座の開催などを行った。</p>
--	--

④総合的な評価

評価時点での総合的な評価	判断	その理由
A: 順調に進んでいる B: 概ね順調に進んでいるが見直す点もある C: あまり順調に進んでいない	B	<p>〇文化財の修繕等については、緊急性や必要性を把握し継続的に予算を確保して助成を行っている。</p> <p>〇子どもや成人を対象にした講座等の開催、各種イベントなど交流普及事業を実施している。</p> <p>〇島根の歴史文化の調査研究を計画的に進め、県外シンポジウム、巡回講座、セミナーの開催や、古代歴史文化賞、14県連携の古代歴史文化に関する共同研究の実施により、県内外に情報発信をしている。</p> <p>このような様々な取組みにより、文化財や地域の歴史文化に対する県民の意識は向上しつつあり、魅力ある地域づくりのための文化財等の活用も進みつつあるが、より効果的な取組みが必要である。</p>

⑤課題の認識

(1) 平成27年度末の施策目的の達成状況（予測）	判断	その理由（「総合的な評価」の「判断」と異なる「判断」の場合のみ記載）
A: 達成できる B: 概ね達成できる C: 達成は困難	B	
(2) 施策の目的達成に向けての課題		<p>〇県民共有の財産・地域資源である歴史遺産の中には、保存のための修理等を必要とするものが増加しつつある。</p> <p>〇石見地域の成果指標の数値が、出雲・隠岐地域に比べて相対的に低い。石見地域で興味・関心を持ってもらう事業の実施が必要である。</p> <p>〇石見銀山遺跡については、遺跡に関する理解を深めてもらうため、情報発信に更なる強化が必要である。</p> <p>〇歴史文化の調査研究については、社会の情勢や県民のニーズなどを勘案したテーマ選定やより効果的な情報発信を行っていくことが必要である。</p> <p>〇歴史文化の活用については、島根の歴史文化のすばらしさを県内外に継続して発信し、その関心をより高めていくことが必要である。</p> <p>〇古代出雲歴史博物館では、展示の魅力を高め、継続的な誘客活動、情報発信を行い、入館者数を確保していくことが必要である。</p>

⑥今後の取組みの方向性

課題解決に向けての今後の取組みの方向性	<p>〇本県の歴史遺産の保存・継承に向け、必要性・緊急性を踏まえ、修理等への効果的な助成を行う。</p> <p>〇石見地域で進めている石見銀山遺跡や石見焼、石見の中世領主の研究を進め、その成果を講座の開催等を通じて情報発信していく。</p> <p>〇石見銀山遺跡を適切に管理し、その価値をより広く認知してもらうため、調査研究の成果をわかりやすく、国内外へ情報発信を行う。</p> <p>〇本県の特色ある歴史・文化の研究を継続し、効果的な情報発信を行う。</p> <p>〇H32年に東京において奈良県と共同開催する展覧会や、「古代歴史文化賞」、14県連携の「古代歴史文化に関する共同研究」などを通じた国内外への情報発信や、「出雲国風土記」、「松江城国宝化」の情報発信などにより、島根の歴史文化の積極的な活用を行う。</p> <p>〇古代出雲歴史博物館等では、よりわかりやすい展示・紹介に努め、国内外への積極的な誘客活動や幅広い情報発信を行う。</p>
---------------------	--